

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24320176

研究課題名(和文) 相互行為としての身ぶりと手話の通文化的探究

研究課題名(英文) Cross-cultural investigation on gestures and sign languages as interaction

研究代表者

菅原 和孝 (Sugawara, Kazuyoshi)

京都大学・人間・環境学研究科(研究院)・教授

研究者番号：80133685

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、身ぶりと手話を微視的に分析し、対面相互行為の構造を身体性の基盤から照射した。また、通文化的な視野から、映像人類学、コミュニケーション科学、生態心理学の思考を交叉させ、マルチモーダルな民族誌記述の土台を作った。とくに、アフリカ狩猟採集民サン、カナダ・イヌイト、インドの憑依儀礼と舞踊、日本の伝統的な祭礼、日本酒の醸造、ろう者コミュニティ、数学者の討議といった多様な文脈における発話と動作の連関を解明し、記憶の身体化を明らかにした。さらに、過去の出来事が語られるプロセスを、表情をおびた身ぶりとして了解することにより、表象と知覚の二項対立を乗り越える理論枠を提示した。

研究成果の概要(英文)：This research revealed the organization of human interaction, by analyzing gestures and sign languages in a microscopic way. It established the ground for multi-modal ethnography by integrating the ideas of visual anthropology, communication theory, and ecological psychology in cross-cultural perspective. Especially, the coordination between utterances and body motions were analyzed in various socio-cultural contexts such as subsistence activity among the San African hunter-gatherers or Canadian Inuit, Indian possession ritual and traditional dance, festival in a Japanese local village, brewing of sake, deaf community, and mathematician argument. These investigations illuminated how the collective memory was embodied beneath the participants' practices. Furthermore, comprehending as the expressive gestures the process through which the past incidents were narrated, we proposed a new theoretical framework that would transcend the dichotomy of perception versus representation.

研究分野：文化人類学

キーワード：身体性 ろう者の会話 マルティ-モーダル民族誌 記憶 生業技術 オノマトペ 舞踊 憑依儀礼

1. 研究開始当初の背景

本計画ではコミュニケーションの意味を担う身体動作を一括して「身ぶり」(gesture)と呼ぶ。それと対置されるのが、ろう者コミュニティに共有される自然言語としての手話である。身ぶりの先駆的な研究は主に心理学者に主導されたが、1980年代以降、D. McNeill に代表される心理言語学が狭義の手ぶり研究の主流を占めた。手ぶり研究は、認知科学的な洗練を遂げる代償として、文化的な脱=文脈化に突き進んだのである。一方、「ろう文化宣言」を契機とし、手話コミュニティへの関心が急速に高まった。だが、意味論・形態論・統辞論の全ての部面で手話言語学は急速に発展しているが、相互行為としての手話を「会話分析」することは、未踏の領域として残されている。本研究は、身ぶりと手話の2領域に跨がり、対面相互行為を多様なコミュニティの民族誌的な文脈に据えて微視分析することによって、コミュニケーションを身体性の基盤から捉えなおし、言語それ自体を「表情をおびた身ぶり」として了解しなおす理論枠を樹立することをめざした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、身ぶりを基軸として相互行為に関わる視聴覚資料を統合し、通文化的な視野を確立すること、また映像人類学、コミュニケーション科学、生態心理学との学際的な連携を通じて、文化人類学に新たな理論枠を提供することである。

3. 研究の方法

多様なフィールドにおいて日常の相互行為および語りをVTRカメラに収録した。会話分析ソフトを用いて、データを微視的に分析し、発話と身ぶりの連関を明らかにした。同時に、狩猟をはじめとする生業活動、酒造現場、芸能集団、ろう者コミュニティ、地域の祭礼を参与観察した。研究会においては連携研究者から生態心理学・言語心理学・記号論の観点から助言と批判を受けた。

4. 研究成果

全体の活動としては3年間の研究期間内に15回の研究会(うち公開シンポジウム2回)を開催し、問題意識を確実に共有したうえで、研究目的に関わる各自がもたらしたデータ

を素材にして、方法論的問題と理論的深化をめぐって徹底した討論を行った。最終年度末には公開シンポジウムにおいて、研究代表者と分担者の計5名が発表し、連携研究者がコメントを加えた。この成果は『身ぶりと記憶—相互行為化する身体』という論文集へと統合する予定ですでに原稿の執筆を進めている(ナカニシヤ出版、2016年末刊行予定)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計39件)

菅原和孝 (Kazuyoshi SUGAWARA)

2012 Interactive significance of simultaneous discourse or overlap in everyday conversations among |Gui former foragers. *Journal of Pragmatics* 44: 577-618.

[査読有り]

2012 「動物と人間の接触領域における不可視の作用主—狩猟採集民グイの談話分析から」『Contact Zone コンタクト・ゾーン』5: 19-61. [査読無し]

2013 「身体化の人類学へ向けて」菅原和孝(編)『身体化の人類学—認知・記憶・言語・他者』世界思想社, 1-40頁. [査読無し]

2013 「過去の出来事への身体の投入—グイの身ぶり論序説」菅原和孝(編)『身体化の人類学—認知・記憶・言語・他者』世界思想社, 254-284頁. [査読無し]

2013 《第8回日本文化人類学会受賞記念論文》『原野の人生』への長い道のり—フィールドワークはどんな意味で直接経験なのか』『文化人類学』78(3): 323-344. [査読有り]

2014 《2013 Japanese Society of Cultural Anthropology Award Lecture》A long way toward *Life in the Wilderness*: In what sense is fieldwork an immediate experience? *Japanese Review of Cultural Anthropology* 15: 5-31. [査読有り]

2015 「鏡なき社会の対他存在論」佐藤知久・梶丸岳・比嘉夏子編『世界の手触り—フィールド哲学入門』ナカニシヤ出版, pp. 197-209. [査読無し]

2015 「原野の殺戮者—グイ・ブッシュマ

ンと動物のいのち」木村大治編『動物と
出会う I 出会いの相互行為』ナカニシヤ
出版, pp. 3-21. [査読無し]

- 2015 「フィールドワークの感応と異化
作用」床呂郁也編『人はなぜフィールド
に行くのか—フィールドワークへの誘
い』東京外国語大学出版会, pp. 168-184.
[査読無し]

木村大治 (Daiji KIMURA)

- 2014 *Everyday conversation of the Baka
Pygmies. African Study Monographs,
Supplementary Issue 47: 75-95.* [査読有り]

木村大治・森田真生・亀井伸孝

- 2013 「数学における身体性」菅原和孝編
『身体化の人類学—認知・記憶・言語・
他者』世界思想社, pp.42-75. [査読無し]

木村大治・西真如

- 2013 「狩猟採集生活は現代生活よりも
知的な負荷が高いのか？」『学際トーク
CAFE』1 : 4-6. (京都大学グローバル生存
学大学院連携プログラム) [査読無し]

石井美保 (Miho ISHII)

- 2012 *Acting with things: Self-poiesis,
actuality, and contingency in the formation
of divine worlds. HAU: Journal of
Ethnographic Theory 2 (2): 371-88.* [査読
無し]

- 2013 「パースペクティヴの戯れ—憑依, ミ
メシス, 身体」菅原和孝編『身体化の人
類学—認知・記憶・言語・他者』世界思
想社, pp. 375-396. [査読無し]

- 2013 「神霊が媒介する未来へ—南イン
ドにおける開発, リスク, ブータ祭祀」
『社会人類学年報』39 : 1-27. [査読有り]

- 2013 *Playing with perspectives: spirit
possession, mimesis, and permeability in the
buuta ritual in South India. Journal of the
Royal Anthropological Institute 19(4): 795-
812.* [査読有り] DOI: 10. 1111/1467-9655.
12065

- 2014 「呪物の幻惑と眩惑」田中雅一編
『越境するモノ (フェティシズム研究
2)』京都大学学術出版会 (493 pp.) pp.
41-68. [査読無し]

細馬宏通 (Hiromichi HOSOMA)

- 2012 「身体的解釈法—グループホーム
のカンファレンスにおける介護者間のマ

ルチモーダルな相互行為』『社会言語科
学』15 (1) : 102-119.[査読有り]

- 2012 「オノマトペの音韻構造とジェス
チャーのタイミング分析」『電子情報通
信学会技術研究報告 : 信学技報』112
(176) : 79-82. [査読無し]

- 2014 「相互行為としてのページめくり」
『認知科学』21(1) : 113-124. [査読有り]

細馬宏通・坊農真弓・石黒浩・平田オリザ

- 2014 「人はアンドロイドとどのような相互
行為を行いうるか—アンドロイド演劇
『三人姉妹』のマルチモーダル分析」『人
工知能学会論文誌』29 (1) : 60-68. [査読
有り]

大村敬一 (Keiichi OMURA)

- 2012 「技術のオントロジー—イヌイト
の技術複合システムを通してみる自然=
文化人類学の可能性」『文化人類学』77 (1):
105-127. [査読有り]

- 2012 「未来の二つの顔に—モノの議会
とイヌイトの先住民運動にみるグローバ
ル・ネットワークの希望」三尾裕子・床
呂郁哉編『グローバリゼーション—人
類学, 歴史学, 地域研究の現場から』弘文
堂, pp. 317-345. [査読無し]

- 2013 「交合する身体—心的表象なき記
憶とことばのメカニズム」菅原和孝編『身
体化の人類学』世界思想社, pp. 154-185.
[査読無し]

- 2013 *The ontology of sociality: 'Sharing'
and subsistence mechanisms. In K. Kawai
(ed.), Groups: Evolution of Human Societies.
Kyoto and Melbourne: Kyoto University
Press and Trans Pacific Press, pp. 123-142.*
[査読無し]

- 2013 「感情のオントロジー—イヌイト
の拡大家族集団にみる<自然制度>の進
化史的基盤」河合香吏編『制度—人類社
会の進化』京都大学学術出版会, pp.
329-348. [査読有り]

岩谷洋史 (Hirofumi IWATANI)

- 2013 「接触領域としての身体—酒造現
場での日常的な実践の事例を通じて」
『Contact Zone コンタクト・ゾーン』5 :
222-238. [査読無し]

- 2013 「情報通信技術関係企業における
エスノグラフィの活用動向について—コ

ンピュータシステム的设计を中心に』『社会人類学年報』39:151-169. [査読有り]
2013年 「開かれたエスノグラフィーを目指して—フィールドとの対話的な関係の模索」『比較日本文化研究』16:44-61. [査読有り]

亀井伸孝 (Nobutaka KAMEI)

2013 「フィールドワーカーと少数言語—アフリカと世界の手話話者とともに」赤嶺淳編『グローバル社会を歩く—かかわりの人間文化学』(名古屋市立大学人間文化研究叢書3)新泉社, pp. 200-237. [査読無し]
2014 「障害」山下晋司編『公共人類学』東京大学出版会, pp. 121-137. [査読無し]
2015 「さまざまな体, さまざまな文化」道信良子編『いのちはどう生まれ, 育つのか: 医療, 福祉, 文化と子ども』(岩波ジュニア新書 799) 東京: 岩波書店. 1-13. [査読無し]

岩谷彩子 (Ayako IWATANI)

2012 「回避されるコンタクト・ゾーン—南インドの移動民ヴァギリの呪術忌避とその変容をめぐって」田中雅一・小池郁子編『コンタクト・ゾーンの人文科学』第III巻—宗教実践』晃洋書房, pp. 127-152. [査読無し]
2012年 「露店はモールを夢見るか—グローバル化するインドにおける露天商ビジネスの現在」, 三尾裕子・床呂郁哉編『グローバリゼーションズ—人類学, 歴史学, 地域研究の現場から』弘文堂, pp. 145-174. [査読無し]
2013 「移動する身体・生成する場所—インドの移動民が夢見るところ」菅原和孝編『身体化の人類学』世界思想社, pp. 102-126. [査読無し]

坊農真弓 (Mayumi BONO)

2013 「手話三者会話における身体と視線」『日本語学 1月号』32(1):46-55. (明治書院) [査読無し]
2015 「ロボットは井戸端会議に入れるか—日常会話の演劇的創作場面におけるフィールドワーク」『認知科学』22(1):9-22. [査読有り]

菊地浩平・坊農真弓

2013 「相互行為における手話発話を記述するためのアノテーション・文字化手

法の提案」『手話学研究』22:37-61. [査読有り]

2015 「相互行為としての手話通訳活動—手話通訳者を介した聞き手獲得手続きの分析」『認知科学』22(1):167-180. [査読有り]

[学会発表] (計26件)

菅原和孝 (Kazuyoshi SUGAWARA)

2013 「『原野の人生』への長い道のり—フィールドワークはどんな意味で直接経験なのか」(第8回日本文化人類学会賞受賞記念講演) 日本文化人類学会第47回研究大会, 2013年6月9日, 慶應義塾大学, 東京.
2015 「神話的・呪術的な想像力の身体的基盤—〈性交の起源〉と〈民俗免疫理論〉をめぐって」第20回生態人類学会, 2015年3月26日, 秋田県仙北市田沢湖公民館.

木村大治 (Daiji KIMURA)

2013 「ファースト・コンタクトの人類学」日本文化人類学会第47回研究大会, 2013年6月9日, 慶應義塾大学, 東京.
2013 Rethinking egalitarianism. 10th International Conference on Hunting and Gathering Societies (CHaGS10), 2013年6月25日, University of Liverpool, Liverpool, UK.
2014 「出会いと挨拶のインタラクティブ構造」第8回VNV研究会年次大会「始まりと出会いのコミュニケーション」2014年3月30日, 国立情報学研究所, 東京.

石井美保 (Miho ISHII)

2012 「開発と神霊—南インドのブータ祭祀における野生, 機械, 環境ネットワーク」日本文化人類学会第46回研究大会, 2012年6月23日, 広島大学
2013 Embodied spirits in industry: Spirit possession, the anti-development movement, and the special economic zone in south India. ICAS8 (The Eighth International Convention of Asia Scholars), Venetian Macao-Resort-Hotel, June 25, 2013.
2013 The chiasm of machines and spirits: Buuta worship, mega-industry, and embodied environment in south India. The

112th AAA Annual Meeting, Chicago, USA,
November 20, 2013,

細馬宏通 (Hiromichi HOSOMA)

2012 Hands and knowledge: Gesture as an epistemic engine in reminiscence therapy. International Workshop on Multimodality in Multispace Interaction (MiMI) Amusement Zone Miyazaki (JA.AZM hall), Miyazaki, Japan, November 30, 2012.

2013 「トランプゲームにおけるマルチモーダルなルールの生成」社会言語科学会第31回大会, 統計数理研究所, 立川, 2013年3月16日.

2013 「かけ声と多人数インタラクショ—野沢温泉道祖神祭りにおける御神木の立ち上げ」電子情報通信学会ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション研究会 (VNV) 第7回年次大会, 東京電機大学, 東京, 2013年3月23日.

2013 Body method of interpretation: Multimodal interaction among caregivers in a group home for the elderly. IEMCA (国際エスノメソドロジー・会話分析学会), Wilfrid Laurier University, Canada, August 5-8, 2013.

大村敬一 (Keiichi OMURA)

2014 Multiple mundi machinae: A comparative study of indigenous knowledge & modern science. 'ONTOLOGIES' Technoscience Salon (Anthropology Conference Room, Toronto University), Toronto, Canada, April 4, 2014.《招待講演》

2014 The two faces of tomorrow: Human bio-sociocultural diversity expanded by space development. Challenges of Space Anthropology, IUAES 2014 (International Conference Hall of Makuhari Messe101a) Makuhari, Chiba, May 15, 2014..

岩谷洋史・星野次郎・大崎雅一・森下淳也

2013 「人類学研究支援環境 DWB における静止画像を主体にしたエスノグラフィの可能性」情報処理学会人文科学とコンピュータシンポジウム, 京都大学, 2013年12月9日~14日.

亀井伸孝 (Nobutaka KAMEI)

2013 「JICAにおける障害者研修と文化人類学的フィールドワークのコラボレーション—コートジボワールにおけるろう

者・手話言語研究の振興」国際開発学会第24回全国大会, 大阪大学, 吹田, 2013年11月30日~12月1日.

2013 Hunting-gathering culture and school education: Comparative studies on Baka children in 1990's and 2010's. 10th International Conference on Hunting and Gathering Societies (CHAGS 10), University of Liverpool, Liverpool, UK, 26th June 2013.

2014 「アフリカ子ども学の試み—そのねらいと展望」日本子ども学会主催「子ども学カフェ」第4回講演会, 慶應義塾大学三田キャンパス, 東京, 2014年4月26日.《招待講演》

岩谷彩子 (Ayako IWATANI)

2012 Streets as space of social inclusion and exclusion: The case of street vendors in Ahmedabad. International Conference in Nagaland University, Kohima, Nagaland, India, 21st-22nd December, 2012.

2013 The Kalbeliya dance as an articulated form of community memory. Panel 'The Transformation of South Asian Performing Arts in the Age of Globalization: An anthropological analysis', IUAES 2014 with JASCA, 幕張メッセ, 千葉, 2014年5月18日.

2013 From vagrancy to criminality: the Gypsy policy and the Criminal Tribes Act in British India. The Annual Meeting of the Gypsy Lore Society, Glasgow, 2013年9月13日, the University of Strathclyde, U.K., 13th September 2013.

2014 「拡張する<道>の芸能—カールベリヤ・ダンスの宗教性と他者性」第22回「宗教と社会」学会, 天理大学, 2014年6月22日.

2014 Consuming gentrified locality: Urban planning of Ahmedabad and the future of street vendors. 日本南アジア学会第27回全国大会, 大東文化大学, 2014年9月27~28日.

坊農真弓 (Mayumi BONO)

2013 Sentences and utterances in conversations: Similarities and differences between signed and spoken Languages. Second International Symposium on Signed and Spoken Language Linguistics, National

Museum of Ethnology, Osaka, September 29, 2013. 《招待講演》

2013 Bodily stance display in narrative: An analysis of sequential structure in JSL conversation. 13th International Pragmatics Conference, New Delhi, India, September 8-13, 2013. 《招待講演》

Mayumi Bono & Kouhei Kikuchi

2014 Challenging the notion of written language: Transcribing sign language interaction. 14th International Pragmatics Conference, Antwerp, Belgium, July 28, 2014.

〔図書〕(計 8 件)

菅原和孝

2013 (編著)『身体化の人類学—認知・記憶・言語・他者』世界思想社, 445 pp.
2015 『狩り狩られる経験の現象学—ブッシュマンの感応と変身』京都大学学術出版会, 511 pp.

木村大治

2015 (編著)『動物と出会う I—出合いの相互行為』ナカニシヤ出版, 197 pp.
2015 (編著)『動物と出会う II—心と社会の生成』ナカニシヤ出版, 174 pp.

細馬宏通

2013 『ミッキーはなぜ口笛を吹くのか』新潮社, 358 pp.
2014 『うたのしくみ』ぴあ, 303 pp.

大村敬一

2013 『カナダ・イヌイトの民族誌—日常実践のダイナミクス』大阪大学出版会。

岡田浩樹・木村大治・大村敬一

2014 『宇宙人類学の挑戦：人類の未来を問う』

〔産業財産権〕

該当せず。

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

相互行為としての身ぶりと言話の通文化的探究

<http://www.embody.jinkan.kyoto-u.ac.jp>

(研究代表者の定年退職に伴い閉鎖)

6. 研究組織

(1)研究代表者

菅原和孝(京都大学・人間・環境学研究科・教授
/2015 年度より京都大学名誉教授)

研究者番号： 80133685

(2)研究分担者

木村大治(京都大学・アジア・アフリカ地域研究
研究科・教授)

研究者番号： 40242573

舟橋(石井)美保(京都大学・人文科学研究所・
准教授)

研究者番号： 40432059

細馬宏通(滋賀県立大学・人間文化学部・教授)

研究者番号： 90275181

大村敬一(大阪大学・言語文化研究科・准教授)

研究者番号： 40261250

岩谷洋史(国立民族学博物館・大学共同利用期間
等の部局等・研究員)

研究者番号： 00508872

亀井伸孝(愛知県立大学・外国語学部・准教授)

研究者番号： 50388724

岩谷彩子(広島大学・社会(科)学研究科・准教
授/2015 年度より京都大学・人間・環境学研究科・
准教授)

研究者番号： 90469205

坊農真弓(国立情報学研究所・准教授)

研究者番号： 50418521

(3)連携研究者

古山宣洋(国立情報学研究所・准教授/2014 年
度より早稲田大学・人間科学学術院・教授)

研究者番号： 20333544